

「*友達に会わなくて、寂しいです」 ——「Vテ、感情」の産出に向けて

村上佳恵

◆要旨

本稿では、「友達に会えなくて、寂しいです」のような、前件が動詞のテ形で後件が感情である「Vテ、感情」という文型を取り上げる。この文型には、「*友達に会わなくて、寂しいです」といった日本語学習者の誤用が見られる。そこで、本稿では、初級の日本語の教科書の「Vテ、感情」の扱い方を分析したうえで、学習者向けに、「Vテ、感情」の前件の名詞句によって、無標のテ形か、可能テ形か、受身または受益表現のテ形なのかを示すルールを提案する。また、「Vテ、感情」について、より広い範囲をカバーできる日本語教師向けの文法解説もまとめる。

◆キーワード

「Vテ、感情」の2つのタイプ、無標のテ形、可能テ形、受身または受益表現

◆ABSTRACT

This study deals with an effective instruction of the Japanese sentence pattern of “Verb-te + emotional expression,” as in “Tomodachi ni aenaku-te, sabishii desu” (I am sad that I cannot see my friends). Japanese language learners often misuse it in their oral and written communication as “*Tomodachi ni awanaku-te, sabishii desu” (I am sad that I don’t see my friends).

Accordingly, we researched how to deal with this sentence pattern in elementary Japanese language textbooks, and propose a rule for Japanese language learners to correctly apply it. In addition, we suggest more detailed grammar notes for Japanese language instructors.

◆KEY WORDS

Two types of a Japanese sentence pattern of the form “Verb-te + emotional expression,” unmarked verb-te-form, verb-te-form of potential verb, passive and benefactive expressions

“*Tomodachi ni awanaku-te,
sabishii desu”

Effective instruction of the Japanese
sentence pattern “Verb-te + emotional
expression”

KAE MURAKAMI

1 問題の所在

本研究では、次の(1)–(3)のような、前件が動詞のテ形で後件が感情形容詞の文型を「Vテ、感情形容詞」、(4)のような、前件が動詞のテ形で後件が感情動詞の文型を「Vテ、感情動詞」、両者を合わせて「Vテ、感情」と呼ぶ。「Vテ、感情」には、(1) (2)のような学習者の誤用が見られる。(1) (2)は、前件が「会えなくて」「会えて」と可能テ形であれば適格文である。しかし、次の(3) (4)のように前件が無標のテ形で適格の文もある。「Vテ、感情」を正しく産出するためには、前件がどのような場合に無標のテ形で、どのような場合に可能テ形なのかを示す必要があるのである^[註1]。なお、以下で出典のない例文は作例である。

- (1) *友達に会わなくて、寂しいです。
- (2) *みんなと会って、嬉しいです。
- (3) 大学に合格して、嬉しいです。
- (4) 地震のニュースを聞いて、びっくりしました。

以下、2節では、「Vテ、感情形容詞」が適格文となる条件を確認し、3節では、「Vテ、感情動詞」と「Vテ、感情形容詞」を同じ文型として扱ってよいかを検討する。そして、4節で初級の日本語の教科書を分析し、5節で学習者向けの「Vテ、感情」の産出のルールと日本語教師向けの文法解説をまとめる。

2 「Vテ、感情形容詞」が適格文となる条件

初めに、「Vテ、感情形容詞」が適格文となる条件を見ていく。

2.1 「Vテ、感情形容詞」の2つのタイプ

村上(2011)は、「Vテ、感情形容詞」には2つのタイプがあるとしている。前件が感情の対象である[対象]と、感情の対象を認識する段階の動作を顕在

化した[対象認識]である。(5)が[対象]、(6)が[対象認識]の例である。[対象認識]は、前件が「見る」「聞く」「知る」等の認識系の動詞に限られ、前件は、無標のテ形である。一方の[対象]には、前件が無標のテ形と可能テ形、それから、受身や受益表現のテ形の場合があるのである。

- (5) 娘が元気に頑張っていて、うれしい。
- (6) 娘が元気に頑張っているのを見て、うれしい。 (村上2011)

2.2 無標のテ形か可能テ形か

表1は、村上(2011)をもとに「Vテ、感情形容詞」の前件が無標のテ形か可能テ形かをまとめたものである。表1の太線で囲った⑦の部分については、2.3で無標のテ形か、受身または受益表現かを述べる。

表1 「Vテ、感情形容詞」無標のテ形か可能テ形か

タイプ	前後件の主体	前件	番号	前件の形	例		
対象認識	同一		①	無標テ形	知らせを聞いて、嬉しいです		
対象	同一	肯定	好ましい	後件非過去	②	可能テ形	着物を着られて、嬉しいです。 着物を着られて、嬉しかったです。
			好ましい	後件過去	③	無標テ形	着物を着て、嬉しかったです。
		否定		④	無標テ形	合格して、嬉しいです。	
			好ましくない	⑤	無標テ形	友達に嘘をついて、苦しいです。	
			否定	⑥	可能テ形	旅行に行けなくて、残念です。	
		異	ヒト	肯定	⑦	無標テ形	太郎が学校に来て、嬉しいです。
	否定			無標テ形		太郎が学校に来なくて、寂しいです。	
	モノ	肯定	⑧	無標テ形	シュートがきまって、嬉しいです。		
否定		無標テ形		シュートがきまらなくて、残念です。			

本稿では、前件と後件のガ格名詞句を「主体」と呼ぶ。「太郎が学校に来なくて、心配です」では、「太郎」が前件の、「私(話者)」が後件の主体である。

[* 友達に会わなくて、寂しいです]

また、前件が受身の場合は、二格名詞句を主体と呼ぶ。「太郎にだまされて、悔しい」の前件の主体は「太郎」である。このように受身文の二格名詞句を「主体」と呼ぶのは一般的ではないが、「太郎にだまされて、悔しい」と「太郎が手伝ってくれて、うれしい」の太郎を同じものとして扱うことが「Vテ、感情」の日本語教育における取り扱いを考えるうえで有益であるからである。

〔対象〕は、原則として前件の出来事が後件の主体にとって自己制御性のない出来事であればならない。そのため、前後件の主体が同一の場合、(7) (8) のように可能テ形にしなければならない。可能形は、意向形や命令形を作ることができず、自己制御性がないからである(仁田1988)。また、(9)の「試験に合格する」のような自己制御性がない出来事は、テ形でよい(可能テ形も可)。

- (7) 着物を着られて、嬉しいです。…………②
- (8) 旅行に行けなくて、残念です。…………⑥
- (9) {合格して/合格できて}、嬉しいです。…………④

しかし、次の2つの場合は例外で、前件に自己制御性があってもよい。まず、(10)のように、前件が好ましくないことの場合は、可能テ形が使用できないので、テ形で適格文になる^[註2]。また、(11)のように、前件が好ましいことで後件が過去形の場合は、テ形でもよい(可能テ形も可)。

- (10) 友達に嘘をついて、苦しいです。…………⑤
- (11) 着物を着て、嬉しかったです。…………③

ただし、(11)については、村上(2011)で、読売新聞の3年分のデータの「Vテ、嬉しかった(です)」の用例135例中、可能テ形が127例で無標のテ形は8例と、可能テ形が多いことが指摘されている。よって、初級の日本語教育では、「着物を着られて」と可能テ形で教えて問題がないと思われる。

そして、前後件の主体が異主体の場合は、人間であれモノであれ、自己制御性は問題にならず、(12)–(15)のようにテ形で適格文となる。このように、「Vテ、感情」の前件は、前件の主体、肯否、好ましいかどうか等によって、無標

のテ形か可能テ形かが決まるのである。

- (12) 太郎が学校に来て、嬉しいです。…………⑦
- (13) 太郎が学校に来なくて、寂しいです。…………⑦
- (14) シュートがきまって、嬉しいです。…………⑧
- (15) シュートがきまらなくて、残念です。…………⑧

2.3 無標のテ形と受身・受益表現

(12)–(15) で見たように、前後件が異主体の場合、前件の出来事は後件の主体にとって自己制御性がないので、テ形か可能テ形かという問題はない。しかし、前後件が異主体で前件がヒト(表1の太線で囲った⑦の部分)の場合、無標のテ形を用いるか、受身または「～テクレル」「～テモラウ」といった受益表現を用いるかという問題が存在する。表2は、村上(2011)をもとに、前後件が異主体でヒトの場合に、無標のテ形か、受身または受益表現かをまとめたものである。なお、前件が肯定で後件が非過去形の例のみを挙げるが、前件が否定、後件が過去形でも、受身または受益表現を使うかどうかは同じである。

まず、次の(16)–(18)のように前件の出来事に後件の主体が関与している

表2 「Vテ、感情形容詞」無標のテ形か受身または受益表現か

前件の主体	前件	番号	前件の形	例		
異	関与する	好ましい	⑨	受益表現 または 受身必須	あこがれの選手に教えてもらって、嬉しいです。 (私の)作品が認められて、嬉しいです。	
			⑩	受身必須	友達に裏切られて、悲しいです。	
	ヒト	関与しない	好ましい	⑦	無標テ形	森選手が活躍して、うれしいです。
				⑪	受益表現 必須	身近な企業を他校の人に知ってもらって、嬉しいです。
		好ましくない	迷惑だ	⑫	受身任意	山田に200Mで新記録を出されて、悔しいです。
				⑬	無標テ形	多くの人が亡くなって悲しいです。

〔* 友達に会わなくて、寂しいです〕

場合は、受身か受益表現が必須である。関与しているとは、(16)であれば、「あこがれの選手が私に教える」、(17)であれば「誰かが私の作品を認める」、(18)であれば、「友達が私を裏切る」のように、前件の出来事に後件の主体が参加しているということである。好ましい場合は受益表現か受身が用いられ、好ましくない場合は受身が用いられる^[註3]。

- (16) あこがれの選手に教えてもらって、嬉しいです。 ……⑨
- (17) (私の) 作品が認められて、嬉しいです。 ……⑨
- (18) 友達に裏切られて、悲しいです。 ……⑩

前件の出来事に後件の主体が関与せず好ましいことの場合は、(19)のように、結びつきが分かりやすければテ形でよいが、(20)のように、結びつきが分かりにくければ、受益表現が必須である。結びつきが分かりやすいというのは、(19)では「自分の好きな選手が活躍すれば、嬉しいものだ」という前件と後件の関係が社会通念として分かりやすいということである。(20)は、「身近な企業を他校の人が知る」ことが、なぜ「嬉しい」のか、前件と後件の結びつきが分かりにくい。分かりにくい場合は、受益表現が必須である。

- (19) 森選手が活躍して、嬉しいです。 ……⑦
- (20) 身近な企業を他校の人に知ってもらって、嬉しいです。 ……⑪

また、前件の出来事に後件の主体が関与せず好ましくないことで、迷惑だと言っても構わない場合は、(21)のように任意で受身が使われる。迷惑だと表現することが不適切である場合は、(22)のようにテ形となる。

- (21) 山田に200Mで新記録を出されて、悔しいです。 ……⑫
- (22) 多くの人が亡くなって悲しいです。 ……⑬

このように、前後件が異主体で前件がヒトの場合は、前件の出来事に関与するか、好ましいかどうか等で、無標のテ形か、受身または受益表現かが決まる。

3 「Vテ、感情動詞」を同じ文型として扱ってよいか

次に、「Vテ、感情形容詞」と「ニュースを聞いて驚きました」のような「Vテ、感情動詞」を同じ文型として扱ってもよいかを検討する。これは、現行の教科書で「Vテ、感情動詞」が「Vテ、感情形容詞」と一緒に扱われているからである。そして、初級の日本語教育では、「Vテ、感情形容詞」と「Vテ、感情動詞」を同じ文型として扱うことが可能であることを述べる。

- (23) 洞窟に入れて、びっくりした。
- (24) 洞窟に入って、びっくりした。

(23)は、「洞窟に入れた」ことにびっくりしており、[対象]である。(24)は、「洞窟に入った後にびっくりした」のであり、前件は感情の対象を認識する段階の動作を表している。このように、2つのタイプがある点では「Vテ、感情動詞」は「Vテ、感情形容詞」と同じである^[註4]。ただし、(24)が適格文であることからわかるように、[対象認識]の前件が認識系の動詞に限られるという制約はない。

しかし、実例では認識系の例が多いことから、初級の日本語教育では「Vテ、感情形容詞」と同じ文型として扱ってよいと思われる。BCCWJで後件が「驚く」「困る」「びっくりする」「安心する」「悩む」「感動する」の6語の「Vテ、感情動詞」の例を集めた^[註5]。その結果を表3に示す。

表3の[対象認識]の述べ語数は、認識系の動詞が182例、認識系以外が62

表3 「Vテ、感情動詞」の[対象認識]の前件の動詞 (BCCWJ)

	[対象認識]		[対象]	計
	認識系の動詞 (見る等)	認識系以外の動詞 (行く等)		
述べ語数	182 (33.2%)	62 (11.3%)	304 (55.5%)	548 (100%)
異なり語数	17 (7.3%)	37 (15.9%)	179 (76.8%)	233 (100%)

[* 友達に会わなくて、寂しいです]

例である。そして、認識系の動詞は異なり語数が17と少なく、述べ182例のうち「見る」が73例、「聞く」が54例であった。つまり、「見て、感情動詞」「聞いて、感情動詞」が多いということである。よって、初級の日本語教育では、「Vテ、感情動詞」を前件が認識系の動詞に限られる「Vテ、感情形容詞」と同じ文型として扱って差し支えないと思われる。

4 初級の日本語の教科書の分析

4節では、初級の日本語の教科書（以下、「教科書」）で「Vテ、感情」がどのように扱われているかを見ていく。

4.1 「Vテ、感情」の取り扱い方

教科書の「Vテ、感情」の取り扱いの有無と、取り扱い方を見ていく。調査対象は、ある特定の職業の学習者や短期の滞在者を対象としたものでない教科書16種である。その結果を表4に示す。「Vテ、感情」を文型として扱う教科書は13種、扱わない教科書は3種であった。13種のうち、「原因・理由のテ」

表4 初級の日本語の教科書の「Vテ、感情」の取り扱い方

	教科書	原因・理由のテ	受身テ、感情	扱い無	課
1	JAPANESE FOR BUSY PEOPLE	●			II-11課
2	SITUATIONAL FUNCTIONAL JAPANESE	●			III-21課
3	みんなの日本語初級	●			II-39課
4	初級日本語げんき			○	
5	にほんご90日	●			2-38課
6	語学留学生のための日本語	●			II-25課
7	学ぼう! にほんご初級		●		2-30課
8	はじめよう日本語初級		●		2-21課
9	JBridge for Beginners			○	
10	日本語初級大地		●		2-36課
11	初級日本語	●			下-24課
12	日本語5つのとびら初級編	●			2-13課
13	NEJ			○	
14	初級日本語 あゆみ		●		2-13課
15	できる日本語 初級/中級	●			初中級-5課
16	文化初級日本語改訂版	●			II-29課

として扱うものが9種、「受身のテ形、感情」（以下、「受身テ、感情」という文型として扱うものが4種である。「原因・理由のテ」とは、「重くて、持てません」、「ニュースを聞いて、びっくりしました」、「雪で電車が止まりました」のように形容詞および動詞のテ形、「名詞+デ」が原因・理由を表すものである。「受身テ、感情」とは、「褒められて、嬉しいです」のようなものである。「受身テ、感情」は、「原因・理由のテ」の前件を受身に制限したものである。教科書では「Vテ、感情」は、「原因・理由のテ」として扱われていると言える。

4.2 解説と例文の分析

次に、教科書の解説と例文を分析し、「Vテ、感情」の前件の自己制御性の制約に関する言及がないこと、また、前件が肯定で可能テ形の例（表1の②）が扱われていないことを指摘する。

「Vテ、感情」は、「原因・理由のテ」として扱われているために、[対象]の前件の自己制御性に関する制約が説明されていない。『JAPANESE FOR BUSY PEOPLE』（以下、『JFBP』）の「原因・理由のテ」の解説を例に見てみよう。

表5 『JFBP』II（第3版）の解説

LESSON11 II Giving a Reason (2) (p.168)
The <i>-te</i> form can indicate a reason for or cause of what the main sentence expresses. Used in this way, it is usually followed by an explanation of the speaker's feelings or circumstances and is virtually interchangeable with <i>ので</i> .
行きたいところが多くて、まよっているんです。 <i>There are so many places I want to go, I'm at a loss.</i> この部屋はしずかで、気に入っています。 <i>This room is quiet and I'm pleased with it.</i> 時間がなくて、本が読めません。 <i>I don't have time, so I can't read the book.</i>
If the main sentence expresses a result you have control over, you cannot use the <i>-te</i> form. Instead you have to use <i>から</i> or <i>ので</i> . Compare the following sentences.
お金がなくて、新しいくるまが買えません。 <i>I have no money, so I can't buy a new car.</i> お金がないので、新しいくるまを買いません。 <i>I have no money, so I won't buy a new car.</i>
A noun followed by the particle <i>で</i> can also express a reason or cause.
じこでみちがこんでいます。 <i>The road is crowded because of an accident.</i> びょうきで会社を休みました。 <i>I was absent from work due to illness.</i>

表5の解説では、テ形は、後件に自己制御性がない場合に「原因・理由」を表すと説明されている。これは、「原因・理由のテ」の説明としては適切であ

「* 友達に会わなくて、寂しいです」

るが、「Vテ、感情」の説明としては情報不足であると思われる。なぜならば、後件に自己制御性がないという「原因・理由のテ」の説明に従えば、感情形容詞は自己制御性がないのだから、「*友達に会わなくて残念です」は、適格文になるはずだからである。

次に、教科書の例文を引用し、「Vテ、感情」の例を表1と表2で示した番号と照らし合わせてみよう。『JFBP』と『みんなの日本語』の例文を引用する^[註6]。この2種の教科書では、[対象認識]と[対象]と一緒に扱われていること、また、②の前件が肯定の可能テ形の例がないことを指摘する。表6・7では、[対象認識]の例を網掛けで示す。

表6・7を見ると、3つの点に気が付く。1つめは、[対象認識]と[対象]の例が同じ文型として扱われていることである。しかし、これは問題である。なぜならば、[対象認識]は、「ニュースを聞いて」のような自己制御性がある前件も可能で、後件に自己制御性がないという「原因・理由のテ」に収まるものであるが、[対象]は、前件も自己制御性がないことでなければならず、「原因・理由のテ」の説明だけでは、「Vテ、感情」を産出できないからである。前件の制約を提示するには、[対象]と[対象認識]を分けなければならない。

2つめは、表1の②の前件が肯定で可能テ形の例文がないことである。つまり冒頭の(2)で挙げた誤用例の適格文「みんなに会えて、嬉しいです」は、扱われていないということである。無論、これは、この2つの教科書の編集方針であり、批判すべきものではないことは承知している。特に『JFBP』の例文は、すべて後件が過去形に統一されている。表1で見たように、後件が過去形の場合は、前件がテ形でもすべて適格文となるため、これは一つの提示の方法であると思われる。ただ、本研究では、「*みんなに会って、嬉しいです」という誤用を防ぐために、②の「可能テ、感情」を先に提示するという案を提案したい。

3つめは、テ形、可能テ形、受身のテ形と、さまざまな形の例文があげられているが、いつ、どの形なのかが示されていないことである。本稿では、前件のガ格名詞句に注目させ、前件の形を示す案を提案したい。

表6 『JFBP』II (第3版)の例文

LESSON11 II Giving a Reason (2) 1 (p.169)	
例) このかばんは かるくて、気に入っています。	
1) このもんだいは むずかしくて、よく わかりません。	
2) きのうは あめで、テニスが できませんでした。	
3) そとが うるさくて、先生の こえが 聞こえません。	
4) <u>じしんのニュースを聞いて、しんばいに になりました。</u>	……①
5) 友達に 会えなくて、残念でした。	……⑥
6) 日本に 来た とき、かんじが 読めなくて、こまりました。	……⑥
LESSON11 SPEAKING PRACTICE (p.173)	
店に たいせつな かみぶくろを わすれて、たいへんでした。	……⑤
アイスホッケーのしあいにまけて、くやしかったです。	……⑤
前、すんでいたまちがかわって、びっくりしました。	……⑧
スピーチで日本語をまちがえて、はずかしかったです	……⑤

表7 『みんなの日本語』IIの例文

39課 練習A-1 (p.114)	
<u>メールをよんで、安心しました。</u>	……①
電話をもらって、安心しました。	……④
家族にあえなくて、寂しいです。	……⑥
友達がいなくて、寂しいです。	……⑧
問題がむずかしくて、わかりません	
使い方がふくざつで、わかりません。	
39課 練習B-1 (p.115)	
例 母の元気な声を聞いて、安心しました。	……①
1) <u>地震のニュースを見て、びっくりしました。</u>	……①
2) 旅行中に財布をとられて、困りました。	……⑨
3) 試験に合格して、うれしかったです。	……④
4) ベットの犬が死んで、悲しかったです。	……⑧
39課 練習B-2 (p.115)	
例 旅行に行けなくて、残念です	……⑥
1) 家族に会えなくて、寂しいです。	……⑥
2) スピーチが上手にできなくて、恥ずかしかったです。	……⑥
3) 息子から連絡がなくて、心配です。	……⑧
4) パーティーに彼女が来なくて、がっかりしました。	……⑦

「* 友達に会わなくて、寂しいです」

5 「Vテ、感情形容詞」の産出にむけて

「Vテ、感情」を初級の教科書でどう扱うべきかを検討し、「Vテ、感情」の産出に向けた学習者向けのルールを提案する。そして、学習者向けのルールよりも広い範囲を日本語教師向けの文法解説という形でまとめる。ある文型のルールをシンプルで分かりやすくすれば、そのルールでカバーできる範囲が狭まるという問題がある。この問題については、学習者に提示するシンプルなルールと、より広い範囲をカバーできる文法解説を日本語教師向けとして整備していく必要があるのではないかと考えている。

5.1 学習者に提示するルール

学習者に提示するルールの前提として、まず、「対象認識」と「対象」は、別々に扱うべきである。「対象認識」は、前件がテ形でよいので、これまで通り「原因・理由のテ」として扱うことが可能であると思われる。

一方の「対象」は、「原因・理由のテ」から取り出すべきである。前件に制約があるからである。取り出したうえで、次の表8のようにガ格名詞に注目させ、「私」の場合は可能テ形、「私以外・モノ」の場合は無標のテ形を使うというルールで提示するのがよいのではないだろうか。これは、表1の②⑥と⑦⑧を提示する案である。このルールは、「Vテ、感情」の前件が自己制御性のないことであることを示すことを優先したルールである。

表8 「Vテ、感情」[対象]の提示案 無標のテ形と可能テ形

文型	例文
(私が) 可能Vテ、感情。	(私が) 友達に会えて、嬉しいです。
(私が) 可能Vナクテ、感情。	(私が) 友達に会えなくて、残念です。
私以外・モノがVテ、感情。	太郎が学校に来て、嬉しいです。 シュートがきまって、嬉しいです。
私以外・モノがVナクテ、感情。	太郎が学校に来なくて、寂しいです。 シュートがきまらなくて、悔しいです。

そして、「ミスをして、悔しい」のように好ましくないことは無標のテ形であることや、「試合に勝って、嬉しい」のように自己制御性がないことは無標のテ形でもよいこと等は、日本語教師が参照する文法解説に入れておく。つまり、表1の③④⑤は、教師用の文法解説にだけ入れておくということである。実際の現場では、学習者にはシンプルなルールを提示し、学習者が言いたいことを言うために提示されていないルールが必要な場合には、必要に応じて提示していくということになるであろう。

また、次の表9の文型も受身や受益表現の後、もしくは中級でも提示をしていきたい。これは、表2の⑨⑩を提示するということである。

以上、「Vテ、感情」の学習者向けのルールとして、ガ格名詞句ごとに前件の形式を示すルールを提示した。

表9 「Vテ、感情」[対象]の提示案 受益表現・受身

文型	例文
私以外がVテクレテ、感情。	太郎が手伝ってくれて、嬉しいです。
(私は) 私以外に、Vラレテ、感情。	先生にしかられて、恥ずかしいです。

5.2 日本語教師向け文法解説

日本語教師向けの「Vテ、感情」の文法解説を表10にまとめておきたい。日本語教師が表10をすべて覚えるべきであるということではなく、「Vテ、感情」について、日本語教師が「なぜ、この文は不自然なのか」といった疑問を持った際に参照するものとして作成をしている。なお、表10も表1を網羅したものではなく、重要であると思われる部分のみを記載したものである。

6 まとめ

本稿では、「Vテ、感情」という文型が教科書では「原因・理由のテ」として扱われているため、「対象」の前件の自己制御性に関する制約が教えられていないということを指摘した。そして、この制約を提示するために、「Vテ、感情」の「対象」を「原因・理由のテ」から取り出し、前件のガ格名詞句ごと

「* 友達に会わなくて、寂しいです」

表10 「Vテ、感情」の文法解説（日本語教師用）

「Vテ、感情」には、[対象] というタイプと [対象認識] という2つのタイプがある。	
<p>[対象] タイプ</p> <p>この文型は、前件の出来事が起きたことと、その出来事に対する話者の感情を表す。前件の出来事は、(ア)(イ)のように、話者がコントロールできないことである。前件のガ格名詞が「私」である場合は、(ウ)(エ)のように、可能形を用いるのが原則である。可能形を用いることによって、前件の出来事は、話者がコントロールできないことであることが示される。ただし、ガ格名詞句が「私」であっても、次の3つの場合は、可能形ではない。①(オ)のように、「試験に合格する」「試合に勝つ」といった話者がコントロールできないことであれば、可能形にしなくてもよい。②(カ)のように、前件が好ましくないことの場合、可能形を使用できないので、テ形を用いる。③(キ)のように、後件が過去形の場合も、テ形でよい(ただし、実例は可能テ形が多い)。</p> <p>ガ格名詞句が「私」以外の場合は、(ク)のようにテ形か、(ケ)のように「～テクレル」「～テモラウ」等の受益表現か、(コ)のような受身が使われる。受身と受益表現は、後件の主体(「私」)が前件の出来事に関与している場合に使われる。</p>	
文型	例文
モノがVテ、感情 モノがVなくて、感情	(ア) メールが来て、嬉しいです。 (イ) メールが来なくて、心配です。
(私が) 可能Vテ、感情 (私が) 可能Vなくて、感情	(ウ) みんなと会えて、嬉しいです。 (エ) 友達に会えなくて、さびしいです。 ※(オ) 合格して、嬉しいです。 ※(カ) 失敗して、恥ずかしいです。 ※(キ) みんなに会って、嬉しかったです
(私以外) がVテ、感情 (私以外) がVテクレテ、感情 (私以外) にVラレテ、感情	(ク) 阪神が優勝して、嬉しいです (ケ) 友達を手伝ってくれて、嬉しいです。 (コ) 友達にだまされて、悔しいです。
<p>[対象認識] タイプ</p> <p>この文型は、前件の出来事が起きて、引き続き、後件の感情が生まれたことを表す。前件は、テ形である。(サ)は、ニュースの内容に驚いたのであり、(シ)は、結果が嬉しかったことを述べている。この文型の前件は、「見る」「聞く」「知る」といった動詞が多い。ただし、(ス)のような文も可能である。(ス)は、部屋に入って、それから驚いたことを述べているだけであり、何に驚いたのかは不明である。部屋の中がからりとかわっていたのか、誰かがいたのか、この文で示されていない。</p>	
文型	例文
Vテ、感情	(サ) ニュースを聞いて、驚きました (シ) 結果を見て、嬉しかったです。 ※(ス) 部屋に入って、驚きました。

に前件の形を示すという学習者向けのルールを提案した。このルールは、「Vテ、感情」のすべての文を正しく産出できるわけではないが、「Vテ、感情」の産出につながるものと考えている。あわせて、日本語教師向けの文法解説をまとめた。学習者向けのシンプルなルールと、より広い範囲をカバーできる日本語教師向けの文法解説の2つを整備していく必要があると考えている。

〈学習院女子大学・東京国際大学〉

付記

本稿は、第136回関東日本語談話会（2014年11月1日於学習院女子大学）で発表した内容を修正したものです。関東日本語談話会で有益なご意見をくださった皆様に感謝申し上げます。

注

- [注1] …… そもそも「Vテ、感情」という文型を初級の日本語教育で扱うかどうかという問題があるが、それは、それぞれの教科書や現場で目標に沿って選択するべきと考えている。本稿は、「扱うなら、こう扱うのがよい」という提案である。
- [注2] …… 「好ましい」というのは、後件の主体が「好ましい」と考えるかどうかである。好ましさと可能形については、林（2007）を参照されたい。
- [注3] …… 受身と受益表現については、李（2006）、許（2010）を参照されたい。
- [注4] …… なお、「Vテ、感情動詞」は、(23)のように前件に自己制御性がなければ[対象]、(24)のように自己制御性があれば[対象認識]となる。
- [注5] …… 国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese)。コーパス検索アプリ「中納言」を使用し、サブコーパス、コア・非コアデータ、固定長・可変長の指定を行わず、全データを対象に短単位検索を行った。6語の感情動詞は、吉永（2008）の「感情的心理動詞」139語のうち、『日本語能力試験出題基準（改訂版）』で旧2級の語彙表にある語を検索し、後件の主体が一人称の例が20例以上あったものである。なお、「楽しむ」も20例以上用例があったが、「楽しむ」は、前件と後件の関係が他と異なるため、ここでは除外する。ここで扱う「Vテ、感情動詞」は、「部屋に入って、驚いた」のように、前件の後で後件の感情が発生すると考えられる。一方、「パンを焼いて楽しんだ」は、前件と後件は同時であると考えられる。
- [注6] …… 『JFBP』と『みんなの日本語』の練習Bは、変形練習の個所であるが、変形後の文で引用する。

「* 友達に会わなくて、寂しいです」

参考文献

- 仁田義雄 (1988) 「意志動詞と無意志動詞」『月刊言語』17(5), pp.34-37. 大修館書店
- 許明子 (2010) 「テモラウ文と受身文の関係について」『日本語教育』105, pp.1-10. 日本語教育学会
- 李仙花 (2006) 「「てもらう」文と受身文の交換可能性について」『国語学研究』45, pp.78-35. 「国語学研究」刊行会
- 林青樺 (2007) 「現代日本語における実現可能文の意味機能—無標の動詞文との対比を通して」『日本語の研究』3(2), pp.31-46. 日本語学会
- 村上佳恵 (2011) 「動詞のテ形、感情形容詞」に関する一考察」『日本語／日本語教育研究』2, pp.169-187. 日本語／日本語教育研究会
- 吉永尚 (2008) 『心理動詞と動作動詞のインターフェイス』和泉書院

調査した日本語の教科書

『JAPANESE FOR BUSY PEOPLE』第3版 I / II / III (2006/2007/2007) AJALT Kodansha International / 『SITUATIONAL FUNCTIONAL JAPANESE: NOTES』第2版 1/2/3 (1995/1994/1994) 筑波ランゲージグループ 凡人社 / 『みんなの日本語初級本冊』第2版 I / II (2012/2013) スリーエーネットワーク編 スリーエーネットワーク / 『初級日本語げんき』第2版 I / II (2011) 坂野永理他 The Japan Times / 『にほんご90日』1/2/3 (2000) ヒューマン・アカデミー教材開発室 ユニコム / 『初級語学留学生のための日本語』I / II (2002) 凡人社教科書委員会監修 岡本輝彦他著 凡人社 / 『学ぼう! にほんご初級』1/2 (第4版2014/第3版2013) 日本語教育教材開発委員会 専門教育出版 / 『はじめよう日本語初級メインテキスト』改訂版1/2 (2013) TIJ東京日本語研修所 スリーエーネットワーク / 『J.Bridge for Beginners』1/2 (第2版2009/初版2008) 小山悟 凡人社 / 『日本語初級大地メインテキスト』1/2 (2008/2009) 山崎佳子他 スリーエーネットワーク / 『初級日本語』新装改訂版上/下 (2010) 東京外国語大学留学生日本語教育センター編 凡人社 / 『日本語5つのとびら初級編』1/2 (2009/2010) 立命館アジア太平洋大学「日本語5つのとびら」編集委員会編 凡人社 / 『NEJ: A New Approach to Elementary Japanese—テーマで学ぶ基礎日本語』1/2 (2012) 西口光一 くろしお出版 / 『初級日本語 あゆみ』1/2 (2012/2013) 関西外国語専門学校教材作成スタッフ 学校法人天王寺学園関西外国語専門学校日本語教育部 / 『できる日本語』初級本冊/初中級本冊 (2011/2012) 嶋田和子監修 できる日本語教材開発プロジェクト著 アルク / 『文化初級日本語テキスト改訂版』I / II (2013) 文化外国語専門学校日本語科 文化外国語専門学校

資料

『日本語能力試験出題基準〔改訂版〕』(2002) 国際交流基金・日本国際教育支援協会 凡人社